

2024年度 三つのポリシーのアセスメント結果について（2023年度実績）

（１）学部

学部のアドミッション・カリキュラム・ディプロマの3つのポリシーに関して、予めアセスメントポリシーで定めた基準に照らし、入試結果や外部アセスメントテスト、GPAや単位修得状況、各種アンケート、進級・卒業判定の結果等、学修成果についての検証をエビデンス（2023年度資料）に基づいて行いました。

入試結果やGPA、卒業率、就職率、授業アンケート結果など、設定した基準を概ね満たしており、教育の質を担保できているものと考えております。

卒業予定の4年次生に対して行った「卒業予定者アンケート」においては、「入学してよかった」との回答が96%と非常に高いものでした。また、卒業後4年目の卒業生に対して行った「卒業生アンケート」においても、本学の総合的満足度は94%、カリキュラム・教育内容に対する満足度についても全5科目群の平均は89%で、とりわけゼミとキャリア教育に関する満足度は90%を超えています。これらの結果からも大学に対する満足度は非常に高く、十分に質保証ができていると考えられます。

さらに、TOEIC試験においては6年連続で目標人数を達成し、目標点数を超えた学生数は6年前と比較すると39%増となっています。また、卒業生を分母とした就職率は目標とする90%以上を達成し、卒業生が就職した企業を対象に行った「企業アンケート」においては、本学卒業生の全体的な印象や仕事ぶり（能力）について93%の企業から優れているとの回答があり、大学教育の効果が社会的にも評価されていることが見て取れます。

課題であった出席率は目標である85%には届きませんでしたが、コロナ禍以降減少傾向にあったものが上昇に転じ、改善の兆しが見えています。

今年度の検証結果をもとに、次年度に向けた評価項目並びに測定基準のさらなる見直しを行い、適切なPDCAサイクルの運用を通じて、継続的な改善に取り組んで参ります。

（２）大学院

大学院においても予め設定したアセスメントポリシーに基づいて検証を行ったところ、入試結果やGPA、修得単位数、授業アンケートの結果などは設定した基準を概ね満たしており、目標を達成していると考えております。

「修了予定者アンケート」では、「身についた力」の指標とする3つの力の全てで肯定的意見が100%、カリキュラムの満足度も全て100%と非常に高く、教育の質を保証できていると考えられます。

一方、博士課程後期課程への進学者や入学者が少ないことは長年続く大きな課題であり、同課程の定員充足率を上げつつ博士の学位取得者を増やすことが、大学院教育の充実や質の保証を担保するために必要な要素であると考えております。今後も研究者養成コースの充実、発展に向けて、評価項目や測定基準の見直しと充実を図り、本研究科の教育・研究内容の改善に活かすことを目標に取り組んで参ります。